

大賣り出し「あそび」

東京女高師附屬幼稚園

神

原

き

く

「賣り出しあそび」は幼児達に取つて最も楽しい遊びの一つです。何處かの組でうり出しがあるといふ事が分るミ、お休みして居る間に「うり出しやさん」があるといけなからミ、少々の風邪氣を押し切つて登園し、マ、を案じさせるといふ期待の仕方ですが、賣る方の側の楽しみは更にく、非常なものです。賣る品々を製造する仕事ぶりに、不斷には見られない熱意ミよろこびがあります。活動状態が、ぐつミ變つて参ります。

勿論この遊びのヤマは賣り出しそのもの、賣り出しその日にありますが、賣り出し準備の幾日間は眞に幼児には楽しい日々であります。我々は、この樂しさを助長し且つ意義多い、價值高いものにしなければなりません。それには出来るだけ多く幼児自身を働かせることです。この遊び

が、幼児自身のものになる様に仕組まれることです。幼児達が働く役割が多い程効果は上ります。この度は丁度町々の歳暮大賣り出しのミきにならつて十二月の十日頃からこりかゝりましたが、當園ではよく新入園児を迎へた春の終り頃や、學期末に開く行事であります。この度の経過を述べて見ます。

相談會

土臺から幼児達を働かせるがいゝ。そこで、最初は相談會です。みんな寄り集つた所で、

—今年も大賣り出しをしませう。

一言で、もう子供達はをきり上ります。此の組は昨年やつた経験があるので。買っただけの経験でもいゝ、一度で

も「うり出し」に會つた事のある幼児に取つては此の言葉で十分です。始めてならば、種んな物を作つてよその組に賣つて上げる喜びを持たせるために、も少し口添が必要ですけれど。

次に

——何のお店がいでせうね

——子供の好きなお店はなあに？

玩具屋さんが、やつぱり眞先きに飛出します。人形屋さん、新時代らしくラヂオやさん、蓄音機やさん、呉服屋さん、下駄屋さん、魚屋さん e.T.C. 言ひ出すものを黑板に書いてやります。何にしても玩具屋が「うりや」の焦點です。

——おもちゃやさんで、何んなもの賣りませうか——

——男の人達には何がいで？女の人には？——

「ケン」、「背囊」、「飛行機」、「飛行船」、「自動車」、「先生、兵隊」この揃つたのがいゝよ、「お人形がいゝわ。——千代紙もね」、「風車」、「おもちゃ道具」……。僕三輪車がいゝな「こんな大きな飛行機を作つてね……」

何時の間にか自分の欲しいものを、デパートでマ、にねだる氣になつたのが居る。こゝで氣づけを、

——幼稚園のおもちゃやさんは、みんなで作れるもの

よ、ぢやあね、何で作るか、考へて——

以上訂正整理しながら黑板に書いて來る。

——こんなに澤山のお店はこのお部屋に並ばないから、後で先生がきめませうね。そして早く御用意してお店をはじめませう。

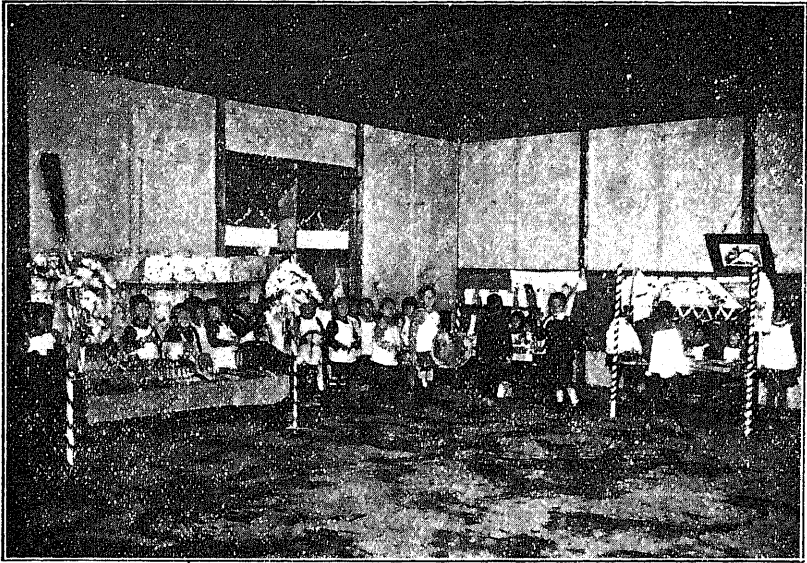
これで相談會は終る。この中から効果の上りそうな、し易さうな五店を商品を選定し、賣り出し日迄の準備、仕事の日程を編む。

商品 材料 作り方

一、おもちゃ

刀ミケン (新聞紙、ボール紙、銀紙、色模造紙) 新聞紙

一枚を二ツ折にして固く巻き締めたもの全面に、色模造紙又は銀紙を貼る。ボールにつば形を書き與へて切り抜かせクレオンでつば飾りをしてさし込む。



肩章(ボール紙、色模造紙)ボール紙は一定の大きさに裁ちおく、赤模造紙を片面に貼りつけ黄色紙にて星、スヂを剪り貼りする。

勳章(畫用紙)騰寫刷したものに彩色して剪抜く。

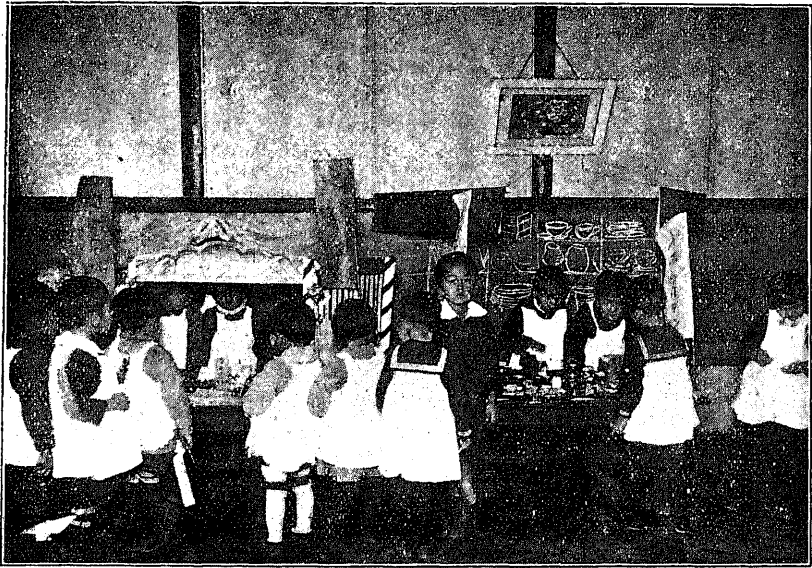
風車(畫用紙、きびがら、桐の實、ひご)いつも色紙を用ひて來たが特に畫用紙に試みた。クレオンで色彩模様に、まわしてきれいな色が出る様に、試めしつゝ塗る。

こま(畫用紙、桐の實、楊子)丸型、花型等に畫用紙を剪り抜き模様をかく。二枚合せ貼る。桐の實はトメに用ふ。

時計(ボール紙、畫用紙、ひも)ボール紙に型をかき與へ畫用紙にて數字板を作らせてはりつけチョコレートの銀紙でフチ取る。

人形(卵のから)泥盆のぐにて顔をかゝせ、つるす、モデルは出しておくが自由に。

羽子板(チリ箱のアキ、千代紙)あいたチリ箱をいさ鋸でひき千代紙をはる。



桃太郎の面(畫用紙)謄寫刷を塗つて剪抜く、桃太郎、犬

猿、雉、鬼の五種一組の童話面。

馬 (藤の葉柄)時折に拾ひ集めたもの、膳先生の「自然

物利用のおもち」より

二、下駄や

草履(ボール紙、色紙、ひも)ボール紙一枚を草履型に剪りぬき、一枚に色紙を貼つて、ひもで鼻緒をすける裏面に他の一枚をはり合せて出来る。

下駄(菓子ナリ、薄い板ぎれにて)

つま皮(畫用紙の臺に、模様描き或は模様貼り)

スリッパ(ラシヤ紙)

傘(きびがら、ひごつほめてあるからかささいふ所、

きびがらにひごの柄を通して、上に、小さく切つた紙をあて、ひもでしばる。

三、家具屋

タンス、鏡臺机(マッチ箱利用、チョコレート銀紙、色紙)テーブル・椅子・机・ベッド(小さい紙の空箱利用)千代紙で鏡掛、白シンモスの小切に模様をかいてテーブルクロ

四、呉服屋

ース、ベッドおほいを添へる、

既製品―紋付、きもの、エプロン色紙をきりぬき、模様づける。

反物（日本紙、タテに二つ切り）お人形の着物になるように注文して作らせる、半分は描き模様、他は辛ばん、木の葉、切り抜き型などおいてきり吹き。板じめの様に疊んで角を繪の具でそめたりなど種々試む。ゴザの上に或は金網、バスケットの上に紙をのせてクレオンをこすりつける。面白いカスリ縞が出来る。これを模様描きしたものに試みる。効果が大変よかつた、機械的工作に工夫をしろんだのだつた。

帯 反物と同様に試みた、（日本紙タテ六つ切り、或は畫用紙を同大に）

五、瀬戸物屋

食器類、（粘土茶碗、皿、きうす、土瓶、コーヒースェット。灰皿まで作る子供があつた。十分乾かしてからエナメルを塗る。

花びん（クリームのおきびん、その他口の廣い化粧び

ん）エナメルで色ぬり、乳白色の地色にエナメルは美しく塗上る。

準備の一週間

製作

相談の結果を日程に編んで材料などの手筈がつく。製作にかゝります。準備の九割迄が商品の製造ですから、多忙を極めます。製作にかゝる前に、五店の經營をクヂ引きで割り當てました。斯うして店のはじまりから、賣り出しの終るまで、責任と權利を持たせます。店によつて手の要し方が違ひますから、必要の折は一同でお手傳ひをいふ事にします。澤山數を要するものは、このお手傳ひをいふ方式でクラス全體でやつて行きます。日程は子供に分るよう書き上げ、貼り出しておきます。出来上りの品種と數量は判然するよりグラフにその都度記入されて行きます。自分のお店で何が作られるべきかを知解して居りますので、うちから兄弟に手傳つてもらつてこさへて来る子があり、

「私の組お休みが多くて間に合はない」ご家でマ、やバの手を借りて、澤山製造して来る者もあります。よそのお店のものでも得意のものは作つて来て呉れます。四五日間は大變な忙しさです。お店つくり、

店作りは何より第一、押されてもくすれぬ安定さを要件としますので、安定ではあり且最も手の省ける幼児机を持ち出しました。机上に高低の陳列臺を作り、(積木を以て店の後になるボードを活用すれば縁日露店の程度にはまるりませうが、出来るだけ、奥行きもあり屋根もあるこいふ感じをこりたいたいと思ひます。材木屋から買入れた一寸角材ミ釘ミ紐を用ひ、後の壁側を支へこしてそれで机上に柱様のものを打ち立て、看板をあける支へを作ります。これで大體屋臺をなしますから、陳列臺の汚ないものには臺紙を以ておほひ、柱には紅白の紙を巻きつけ、適當に品物を並べます。これで軒のれんを兼ねた看板を三方にめぐらすこ相當景氣の良さそうなお店が出来上ります。

品物の豊富な、最も人氣のあらう玩具屋一店を中央に、兩側に通路をおいて家具屋、下駄屋、呉服屋、瀬戸物屋を並

べました。玩具屋には都合よく長椅子の臺が間に合ひました。御あつらへ向きに出来上つてゐるのです、こゝまでを賣り出しの前々日迄にやつて来ました。後一日で凡べてを整へねばなりません。組の缺席の子供に知らせの葉書をかゝせます。

賣價つけ お金のこみ

賣價、お金のこみに就いては随分考慮させられました。

當園は二年保育です。上級組では十以下の數は十分扱ひ得るさはいへ、それは數へるこみ算用するこみに専らな場合のこみです。賣り買ひに夢中になつて居る時、お釣りの正確な勘定は望めません。併し下級組さへさも十の數は數へるだけなら大部分出来ます。そこで去年は一錢貨幣を鑄造して一同にこれを十個、即ち十錢だけ持たせ(厚畫用紙に赤紙を貼り、丸く打ち抜いたもの)、同じ打抜の丸を定價の數だけ定價票にはりつけ、其の下にセンの羊版を捺しました。但し、去年は小範圍に賣つたものでした。それが割合に好成績に参りましたから、本年もこの式にならつたのであります。この度は一人の購賣高を五錢とし、一錢を五

個渡しました。賣價は五錢以下です。賣價表を示します。

品物	單價(セン)	個數	小計
刀、ケン、	〇〇〇〇〇	五	七五
肩章	〇〇	二	五〇
勳章	〇	一	四五
風車	〇〇〇〇	四	三六
こま	〇〇	二	五〇
腕時計	〇〇	二	二〇
卵人形	〇〇	二	三二
羽子板	〇〇〇〇	四	八
桃太郎の面	〇〇〇〇〇	五	二〇
面一個より	〇	一	二〇
馬	〇〇〇	三	二五
草履	〇〇〇	三	四〇
下駄	〇〇〇〇	四	一〇
つま皮	〇〇	二	二〇
スリッパ	〇	一	三〇
傘	〇	一	五〇

タンス	〇〇	二	五	一〇
鏡臺	〇〇〇	三	一〇	三〇
椅子	〇	一	二〇	二〇
テーブル	〇〇	二	一五	三〇
ベッド	〇〇〇	三	一四	四二
紋附	〇〇〇	三	二六	七八
エプロン	〇	一	一七	一七
反物	〇〇	五	五八	一一六
帶地	〇	三	三〇	三〇
花瓶	〇〇〇	二	二二	六六
茶碗、皿等	〇	七	七一	七一
商品總高			一五、三五	

購買力總計と品數品種を考慮して各賣價を定めます。このクラスには各十五錢を、他の五組には五錢宛、各組三十人、合計高「拾貳圓也」。商品總高は拾五圓參拾五錢。幾分の餘裕を見ておく必要があります。この組に一躍拾五錢を持たせた事は少し大過ぎたでせうか。折角一生懸命作ったものを、買った後に持つて遊ばれるものです。この子達

に買はせたいやりたいを、私共のボン慾が出たそれ丈の理由です。買はせてやりたいやうなものは高價にしておきました、最大限の五錢に、五錢にしておけば他の組の子供は買はないだらう、たつた一つよりも、外にいろんな物があるのだから、種々他のを買ひ合せて行くに違いないと思ひましたので。併し事實は豫想を外されました。たつた一品でもミ、ねらひ願つて買はれてしまつたんです。これ丈は意外でした。この組は一等最後に買ふ事にしてあつたのです。

あゝは最後の飾りつけ、宣傳等が残つて居る許り。保育室の入口に裝飾をして「大うり出し入口」ミ張り出し、各店に「大ウリダシ」の幟をたてます。

宣傳、ポスター、ビラ、案内状

大きな模造紙、壁紙にポスターを書きます。筆を振つて「大ウリダシ」ミ書きます、繪の得意の子供は、片方からポスターカラーで繪を入れて行きます。小さいビラは一同揃つて書きました。「日」ミ「場所」「大ウリ出し」ミを入れる様に必要だけ注文するミなか／＼ふるつた文句や繪を入れ

るのが居ります。

オコサマガタノ　オヨロコビ　大ウリダシ　バンザイ
オコドモサマノ　オタノシミ　大ウリダシ

これを廊下にはり出す。撒いて歩く。

同時に各組に案内状ミ五錢宛入つたがま口を届けます。がま口は摺み方で摺む大變簡單なもので濟ませました。このお金で買ひに來て下さる様案内状には書き添へてあります。

いよ／＼「賣り出し」

前日の宣傳が利いてお客様達は十二時の開店を待ち遠がつてくれる。まだか／＼ミ催促に來る。組の子供は今朝より早く、たつた一人病氣他は皆出席しました。最早、用意萬端整つて居る。今朝は愉快に　落ち付いて、もう一度店を品物を見廻はさせ、うり出しについての注意を與へ、細かい割役を一人々々にのみ込ませます。十一時に晝食を早めて、場内の清掃をへるさいよ／＼十二時、運動會に用つた樂隊で、チンドンヤの一行が「大うり出

「職を後前に園内を案内してまわる。待ち構へたお客様がさつこ押しかける、各商店から撰抜された整理掛りがまごつく。

——イラッシャイ〜 大ヤスウリ!

——サア、イラッシャイ〜

——クダサイナ〜

——コチラヘモキテクダサイ、大ヤスウリ〜

女兒も男兒も大聲をあけて居る、うり聲も客呼びもなかなか上手です。一巡二巡、めぐりをへたチンドンヤが歸つて来て一層はやしたてる。そのにぎやかなこゝろ。

*

*

*

一時半、第一日の店を閉ぢる。あこで、金庫を開いてしらべましたら、餘りに勘定が合はな過ぎます。「お負けしませませう」ミ氣前のいゝのが居たので豫算が食ひ込んでしまひました。第一日は小さい組の人達だけがお客様でした。

店をミゝのへ直して第二日のうり出し、今日は大きい組がお客様。お客様の方は一日「お預け」をさせられただけに

期待し意氣込んでやつて来たが、當方は昨日に増す程の元氣が出なかつたのは、自分達が買ひたい、いゝ物がなくなるに案じたせいか。或は興奮のくり返しを要求するのが無理だつたのかも知れません。うり出しは一日を一ぱいに樂しみ切つて終つた方がよかつたと思ひます。組の子達の買つたものはあはれを感じた残り物でした。それでも子供は不足さうでもなく、賣つた事の満足の外に買ひ得たうれしさも十分持つた様子でした。

翌日きいてみました。賣るのミ買ふのミどちらが好きか。男の子の多くは賣る方が好き。「ちつこも買へなくてよい」の「つてきゝましても關はない」といふ子が多數でした。女の子の過半は買ひ好きといふ答。女が慾だといふ事になるか否かは、これ丈からは判断しかねます。

經濟的に

諸事節約の時節柄といふ理由ではありませんが、結構なるべきうり出し遊びも、組の小さい會計には随分こたへるのです。さつこ費用をこりますから。計畫のはじめに

當つて條件を三つ立てました。これを成るべく多く含んだものを取つたのでした。

一、成るべく費用を取らなくて済むように。ためには不用品自然物を利用すること。

二、成るべく買つたもので遊ばれるようなもの。

三、製作が價値あるもの。製作することが幼児を益するもの。

不用品材料アキビン、卵のカラ、マッチ箱、チリ箱、アキ箱等は日々幼児に申しつけて持つて來させました。金を拂つて買入れた材料費は次の如く三圓十三錢でした。

茶ボール	五枚	二五錢
畫用紙	一五枚	六〇
日本紙	二疊	一六
大和のり	大 ⁴ 八個	五二
櫻のり	一個	二〇
色模造紙	三〇枚	三〇
運算用紙	二疊	一〇
楊子	一束	一〇
角材	五本	六〇

緒ミシン 一個 三〇

合計 三、一三

省みて

計畫のはじまりから店の終る迄が十日間、最初の相談日曜日を除く三本當に準備に要したのは五六日でした。兩三回の經驗から考へるに、餘り長時日をかけるにだれまじし、仕事又仕事に追はれる程短か過ぎては、荷がから過ぎ、面白さが減ります。そしてよくはありません。十日から二週間くらゐが最も良さうに思はれますが如何でせうか。もつとも、私共の幼稚園では三十人の幼児に、實習科の生徒が居りますので先生の手が十本あるわけです。標準にはなりますまいが、五軒もの數にせすも大賣り出し氣分は出ませうし、おもちゃや一店だけで、これに全力を傾倒して、さかんな賣り出しも亦面白いものです。お砂場の團子屋さん、粉屋さんがあれ程面白い幼児です。觸つてもつぶれない、吹いても消えて行かない實質あるものを商はせてもらつたら、有頂點によるこぼ筈です。子供達のために、時々のお試みを願ふ次第であります。